

# 会 議 録

## 1 会議名

令和4年度第10回直江津区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### 【自主的審議事項】

- ・消防団のあり方について（公開）

## 3 開催日時

令和4年11月8日（火）午後6時30分から午後7時55分

## 4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

## 5 傍聴人の数

1人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 青山恭造（会長）、田中美佳（副会長）、磯田一裕（副会長）、  
今川芳夫、河野健一、久保田幸正、坂井芳美、田中 実、田村雅春、  
中澤武志、古澤悦雄、丸山岳人、水澤敏夫、水島正人（欠席者2名）
- ・危機管理課： 西條係長、清水主任
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

## 8 発言の内容

### 【小川係長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

### 【青山会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：水澤委員、水島委員に依頼

議題【自主的審議事項】消防団のあり方について、まず事務局からの説明を求める。

**【小川係長】**

当地域協議会では、「消防団のあり方について」を自主的審議事項のテーマとしていることから、上越市消防団上越方面隊直江津分団の現状や問題点、今後の取組について、担当課から説明を受けることとした。担当課から説明いただいた後、質疑応答の時間としたい。

**【青山会長】**

担当課からの説明を求める。

**【危機管理課：西條係長】**

- ・資料No.1 「上越市消防団上越方面隊直江津分団の組織体制の見直しについて（中間報告）」に基づき説明

**【青山会長】**

説明に対し、質疑・意見を求める。

**【古澤委員】**

3年ほど前に各町内会長が集まって、これから消防団員が減ってくるので合併するという話を聞いた。その時に、直江津分団の中央と駅南が一緒になるかもしれないという話があった。それは困ると思っていたが、そのまま今に至っている。今、実際に団員が減少して、中央消防部が当初15名程いたが、今は8、9名である。団員が退職すると退職手当が発生する。直江津小学校区で1世帯200円、五智地区と直江津地区で1世帯100円ずつ負担して予算としているが、予算面でも退職金等が絡んできて非常に厳しい状況にある。行政からもお金が出ていると思うが、その辺をどのように考えているのかお聞かせ願いたい。

**【危機管理課：西條係長】**

市の消防団の退職報償金は、新潟県市町村総合事務組合があり、そこに市の予算で掛け金をかけて団員が辞めた際には退職報償金が支払われている。階級や在団年数に基づき退職報償金をお支払いしている。

**【古澤委員】**

町内でも退職金を出している。それが財政を圧迫している。先日、直江津分団で複数の退職者がいた。退職金を払わないわけにはいかないのに、地域の皆さんから集金して補給しないといけないのかという事情がある。今日、結論が出なくてよいが、その辺の方向性が各分団の中で抱えている悩みではないかと思う。

あわせて、幽霊団員の存在である。全く消防団員活動に出てこなくて退職する人がいる。その人への退職金をどうするかといった問題が出てくる。行政の指導を明確にさせていただければと思う。地区的にそういった人も多いのではないかな。

**【危機管理課：西條係長】**

確かに仕事を持ちながら、消防団員活動をしていただいている関係から、仕事の都合で活動できない、市内に家はあるが仕事の都合で市外に行く場合もあるなど、どうしても消防団活動に参加できないという人も存在する。そういった人は、例えば、上司である分団長、消防部長から我々に相談いただいて、活動できないという人は退団いただくという話はしている。個別に事例があれば教えていただければと思う。

**【古澤委員】**

財政のひっ迫がいろいろなところに影響してくる。直江津分団は、団員が若返ってきている。ただ、まったく出てこない人が退職する時に退職金を払ってよいものか、一元的に行政のほうからきちんと指導していただきたい。後から、退職金をもらっていないと言われても問題になるし、各分団で頭を抱えている問題だと思う。

**【危機管理課：西條係長】**

地元から支援していただいているのは非常に有難いが、地元からの支援に関しては、地元の中で議論した上で、決めていただくしかないと思う。行政としてはきちんと公金によって団員に対して、退職報償金や年額報酬などを支払っている。また、活動することができない人に対しては、退団いただくように消防団の会議の中でも説明しているので、ご理解願いたい。

**【田中実委員】**

私も消防団活動を長年しているが、市の消防団の現状として団員不足だと言われるが、消防団のOBの利活用はどうなっているのか。

また、町内会の防災器具場にどのような機材があるのか。防災訓練に関しては、各町内会任せなのか。消防団の人が協力してやっているのか。

**【危機管理課：西條係長】**

OBの方で、経験を積まれて知識がある人がいることは承知しているが、基本的に資機材等を用いた消火活動については、現職の消防団員に限らせていただいている。もし、OBでまだできるという人がいれば、有難い戦力なので再入団をお願いしている。

器具置き場においては、消防団活動に必要な資機材は配備している。不足があれば、

随時、消防団と我々事務局で調整している。防災訓練は、防火週間の際に火災を想定した訓練を行っており、その中で地元町内会である自主防災組織の方からも協力をいただいている。また、地元自主防災組織の皆さんで企画した避難訓練の中に消防団員も入り、訓練も一緒になって行っている。先日も消防団長から団員に対して、自主防災組織等が行う防災訓練などの訓練や行事には、これまで以上に積極的に参加するように通知している。どちらか一方がということではなく、互いに連携しながら訓練を行っている。

#### 【田中実委員】

古澤委員が言われた町内より退職金を支給しているという話は、今回初めて聞いた。消防団に対する各町内での手当は、消防団の規模によって隔たりが大きい。

#### 【危機管理課：西條係長】

消防団員の活動に応じて必要な報酬については、市からきちんと支払っている。今年から年額の報酬は、団員に対して一定額引き上げ3万6,500円とし、火災については1日当たり8,000円とするなど、処遇に対しても改善させていただいた。それ以外で地元町内会の皆さんから、各消防部等に対して任意のご支援をいただいております、その内容に濃淡があるものと認識している。それについては、あくまで地元からの任意の支援であると理解している。

#### 【古澤委員】

私の手元に平成23年の資料があるが、年間手当、部長5万円、班長3万円、団員1万円を支払っている。これは、町内を巡回や活動することになっている。退職金の関係だが、部長、班長が5年以上10年未満で3万3,000円、10年以上20年未満で5万5,000円、20年以上で7万7,000円である。長い方がいるので、それが結構きつい。これは、直江津地区町内会長協議会で決定したものを踏襲している。1世帯200円集金したお金を9月に消防団長のところに納めて活動費にしてもらい、報告を受けている。

#### 【中澤委員】

消防団員が不足していて、それをどのように解決するかが10年来の問題である。根本的な解決法がなかなかみつからない。古澤委員の言われたとおり、地区の町内会で負担しているし、市からも出ている。希望者しか入って来ないが、地域によっては、何歳以上は必ず消防団員になるという地区もある。そういったシステムをとればよいのだが、それがなかなかできない。

今、中央分団は何名いるのか。また、どういった努力をしているのかも知りたい。

**【危機管理課：西條係長】**

中央分団の団員数は7名である。我々も団員の確保は大事だと思う。直江津だけではなく、上越市全体で人口減少が進んでいて、どうしてもなり手がいないのも事実である。我々も勧誘活動を地道にやるしかないと思い、取り組んでいる。ただ、人がいなくなったから統合だということではなく、団員の負担軽減などの処遇改善を図り、団員を確保する取り組みを行っているのでご理解願いたい。

**【古澤委員】**

会則で決まっているので、消防団の活動として、毎週第1、3日曜日に夜8時から10時頃までパトロールをしている。

**【田村委員】**

消防団で活動する上で、最低1消防部として何人必要なのか。

**【危機管理課：西條係長】**

上越市消防団としては、定員は定めていない。ただ、小型ポンプを載せた積載車であれば4人いなければ動かないし、大型のポンプ車であれば、5人いないと操作ができない。欠席者がいると動かない状況になるので、一定程度予備、もしくは1班、2班体制であれば、3班で回すのであれば15人といった場合が多いが、何人以上でなければならぬということはない。

**【田村委員】**

港町と市之町が統合することだが、何人来て、運営上当面大丈夫なのか。

私は駅南だが、第3日曜日に必ず巡回している。災害時に関川の土手の監視する活動をしている。町内会も率先して、消防団の皆さんと密接に懇談を行って、会員拡大に取り組んでいる。仮に港町と市之町が統合して直江津分団はその体制でやっていけるのか。とりわけ、港町は関川も近いし、海も近いので災害が予想される地帯であるし、地震の時に非常に困難を極める地帯であると聞いている。危機管理上、上越市全体がみなくてはならないが、地元の消防団として何ができるのか、ここまではやっていいのか。その辺の行程表を今後作っていかなくてはならないのではないかと。

**【危機管理課：西條係長】**

市として、丸投げしている訳ではないが、再編に関しては消防団が主体的に取り組んでおり、今後の体制を分団の中できちんと議論していただいている。毎年、各消防部が

当面は活動できるということをきちんと議論いただき、我々事務局もその内容を聞き取り、確認している。

団員が減っている消防部が多くあることは事実であり、港町、市之町が一緒になった場合に他がどうなのかという意見はよく分かる。直江津分団が全体として消防団活動をしなが、それでも活動を続けるのが単独としては困難だということで、分団の中で検討し、結論を出したものが港町と市之町の統合だったものと承知している。例えば、今、市之町の団員数は7名だが、平均年齢をみると直江津分団内の他の消防部が30代、40代である中、約55歳の平均年齢で消防団活動を継続していただいている。単独で継続するのは困難だという方針になり、隣の港町と一緒に広域的に活動したいということで、結論を出していただいた。行程表というのも分かるが、そこは毎年度、分団の中できちんと議論していただきながら、我々事務局としても確認していることをご理解いただきたい。

#### 【水島委員】

皆さんが大変努力をされて現状があることが理解できる。市之町と港町が合併した中で今後活動をしていく。これも理解できる。しかし、日本全体、上越市全体で人口減少を止めることはできない。大きな意味で今後いろいろな分野でこういう現象が起きてくると思う。そういう中で皆さんが、消防団を今後うまく運営していくために将来に向かってどのような考えを持っているのか、現状近々では、私はこれで良いと思う。今後の中で人口減少がもっと加速していく、高齢化していくことは目に見えてわかっている。その中でどういう状況に持っていきたいのか。どういうふうに団員を確保していきたいのか。現時点でお話になっているようでしたらお話したい。

#### 【危機管理課：西條係長】

なかなか難しい問題、究極的な課題ということで投げかけをいただいたものと思っている。我々は、あくまでも消防団の事務局であり、上司には消防団長のほか、副団長である上越方面隊長などがおり、事務局として結論を申し上げる立場にはない。しかし、上越市の消防団としては、平成31年に上越消防団適正配置検討委員会から団員の減少に向けた提言をいただいております、その提言も踏まえて今、消防団自らが再編の道を歩んでいるということをご理解いただきたい。遠い将来と言われると難しいが、平成31年3月にまとめられた報告書の中では、10年後を見据えた消防団活動ということで、広い地域を大勢の消防団員で守る体制づくりを行う、また、関係団体の協力もいただきな

から団員の確保を行うなど、地域消防力を維持していこうということで取り組みを進めている。それよりも先の未来というのはなかなか現時点で答えを持ち合わせていない。

#### 【青山会長】

6点伺いたい。

1点目、消防団員が年々減少しているが、60歳定年制度をどう思うか。定年後も延長していることをどう考えるか。今、民間企業では定年が65歳から70歳になっている時代である。消防団についても定年延長は有り得るのか。

2点目、消防団協力事務所認定制度の現状を知りたい。認定が名前ばかりで用をなしていないのではないか。

3点目、団員の処遇は、他の市町村と比べて上越市はどうか。

4点目、大規模災害においては地域自主防災組織との連携はもとより、防災士との連携も必要だと思うが、その辺はどう考えるのか。

5点目、地域における団員が少ないとき、国家公務員、地方公務員の入団を推奨してほしいと思うがいかがか。

6点目、上越市における女性団員の現状と団員確保のための施策をお聞きしたい。

#### 【危機管理課：西條係長】

1点目、定年に関しては、ローカルルールで何歳までという自主的な取り組みがある分団や消防部があることは認識しているが、全市的に統一した定年は設けていない。実際に60代、70代でも活動いただいている方もいる。町内会の役員をやりながら、消防団員として活動している方もおり、頭が下がる思いである。活動いただける方にあつては、何歳までということではなく、事務局としては活動できる方に活動していただきたいと考えている。

2点目、消防団協力認定事業所については、そのようなご指摘を頂かないように実のあるものにしていきたい。貴重なご意見をいただいたことについて、担当にも伝えたい。

3点目、処遇については、消防団員の年額報酬で例えるならば、消防庁から全国的に年額報酬を3万6,500円に引き上げるように助言を受けており、当市もそれに基づき引き上げている。

4点目、大規模災害時の防災士との連携については、会長が言われるように、消防団と自主防災組織の連携を強化するように消防団長から通知も行っている。自主防災組織の要となる立場にいるのが防災士ということも承知している。ご指摘のとおり、今後も

連携を図っていきたいと考えている。

5点目、団員の確保に向けて国家公務員、地方公務員の勧誘については、消防団からも質問を受けている。我々、市役所職員も消防団に入っており、国家公務員などからも入っていただいている。妨げるものはなく、法律の中でも本来業務に支障がなければ求めに応じて消防団活動に参加できることが認められている場合が多いので、そこはきちんと対応させていただいている。

6点目、女性団員については、主に防火啓発活動やAEDの講習などを担当している。今年度は女性団員が5人増えるなど、明るい兆しもあるので、今後も頑張っていきたいと思っている。

#### 【青山会長】

他に質疑を求めるがなし。

— 危機管理課 退室 —

#### 【青山会長】

消防団の説明を受けて、今後の審議の進め方について意見を求める。

#### 【磯田副会長】

消防団のあり方について、自主的審議事項の項目にずっと残っている。私は、前期と今期2年地域協議会委員をしているが、その間で消防団のことについて深く議論をしたことがない。項目としては残っているが深く議論をしていないし、消防団の体制や運営の方針、給与の話についてしっかり勉強していないというのが現実である。

課題として消防団については常に残っていくが、自主的審議事項として議論してどのように反映させたり、提言したりしていくのかがなかなか見えてこない。上越市全体の大きな問題である中で、より具体的に直江津区としてこの問題をどうとらえるか。古澤委員からの町内会としてプラスの手当を補填しているという話を初めて聞いた。そういう問題もあるということであれば、地域協議会の中で議論をさらに深めていく必要もあるのかと感じた。この問題をもう少し深掘りしていくのかどうか、項目としては常に上がるが、ずっと棚の上にあがっていて何も議論していないので、再度、自主的審議事項の課題として本格的に議論をするかを考えたほうがよいと思う。

#### 【中澤委員】

これは、地域協議会の最初からある問題である。根本的には団員の確保をどうするか、とにかく団員がいないということで、それをどうすればよいか自主的審議事項の問題

になっている。今日の話だと解決策はない。直江津地区の町内会長会議で手当てを作ったことは知っている。団員を確保するために何とかしようということで作ったものである。しかし、今はそれが逆に首を絞めている感じになっている。結局、消防団はどういう役割をしているのか。法的な消防署の職員とは違う。後始末を全部やっている。そういった役割や手当てを1回勉強したほうがよいと思う。

#### 【古澤委員】

今、話を聞いていて思ったのが、私たちの話が理解されていない。理解されていないから話が平行線である。中澤委員が言われたように、消防団員確保のために手当や退職金を出して頑張ってもらおうというのが始まりである。それが、今、直江津地区と五智地区で36町内あるが、同じ土俵の中でやっている。市のほうでは、全く理解されていないと思う。そんなことがあったのかという感じなので、隔たりがすごく大きいように感じた。その辺をぶつけながら、危機管理課と話し合っていく必要があると思う。確かに市からもお金が出ている。3年前の会議で幽霊会員が多くなって議題になって揉めた。それから、コロナ禍になり会議が無い状態である。今回たまたま直江津区で自主的審議事項に載ったので説明していただいた。根本的にはまだまだ隔たりが多い。私たちの現状を話していかないと話が始まっていかないのではないかと思います。

#### 【田中実委員】

消防団に入りたくないというのは原因がある。年間通して訓練として3、4回ある。それを春の新入団員の時の訓練だけにして、残りは各消防部に任せるような形で、また、県大会や全国大会があるが、それは年間プログラムで次はどこかシフトがある。訓練を無くす方向に持っていけばよい。若い人に話を聞くと、消防団の飲み会はよいが、訓練が多く5月のゴールデンウィークの時期に当たるので嫌がられる。まず、訓練を省力化することが先決だと思う。

#### 【田中美佳副会長】

私の知り合いに、五智で消防団に入っている人がいる。訓練は大変だと聞くが、やりがいをもってやっている人たちもいて、大会に出たとか、いいところまでいったと皆で喜んでいたという話も聞く。しっかりやっている人もいて、若い人を連れてこなくてはと一生懸命考えている。地域を守っていかなければいけないと思っているので自分たちも年だが、その後の事を心配しながら後継者を探したり、育てるために無理を言わないほうがよいとか、自分たちでできることはするようにするという形でやっている。それ

でも人は来ないので、問題はとても大きいのだと思った。皆さん、団員確保の話をしているが、市の担当課と温度差を感じた。私たちは直接消防団の人の意見をきちんと聞いていない。想像だけで話をしていて、その話がいつのものかわからないので、やるのであればきちんとした状況を把握しながら担当課と話をしていないとずれていってしまうような気がする。

#### 【田村委員】

訓練は大事だと思う。最初はもちろん訓練は繰り返し必要だと思う。繰り返し訓練することによって、本番で役に立つ。私は防災士をやっているが、防災訓練で毎年同じことをやっているかもしれないが、毎年事象が違う部分もあるので、そのために訓練をやるのである。問題はいかに団員を集めるかである。先ほど手当の話が出たが、町内によって手当が違う。いわゆる上乘せ支援をしている。それは、本来国や市が十分に支払うべきと求めているかどうか。

#### 【丸山委員】

今後の進め方の話しをしていると思うのだが、まず、現状を知るところで直江津の中央消防部の人から話をしてもらおうとか、消防団の資料を事務局から用意してもらって、それを精読するといった現状を知ることから始めてはどうか。

#### 【青山会長】

丸山委員の意見に対し、意見を求める。

#### 【磯田副会長】

賛成である。自主的審議事項にずっと名を連ねてきているし、第1回目からこの課題が出ていて、ずっと残されてきた課題なので、これを本格的に審議の項目として取り組んでいくべきだと思う。どんな方に話を聞いたらいいのか、先ほど、担当課が言っていた平成31年の上越市消防の適正配置の報告書は、ぜひ各委員に紙ベースで配っていただきたい。

#### 【中澤委員】

何年前か前にこの問題を地域協議会でやって、危機管理課が来たことがある。しかし、話がまったくかみ合わない。こちらが団員不足だと言っても、団員は足りていると書類上はきちんと揃っていると答えているので、全然合わない。現場の団員からも来てもらわないと話が出来ないと思う。それから、消防団の具体的な仕事内容をこちらが把握していないと危機管理課と話が合わない。

**【青山会長】**

他に意見を求めるがなし。

話をまとめると、消防団の方から来てもらって現状を知ることが大事である。現状で残っているのは、五智、直江津、港町、市之町の合併だが、何処から来てもらうのがよいか意見を求める。

**【古澤委員】**

団員は、五智が一番多い。

**【水澤委員】**

五智の状態と直江津の状態は違う。各消防部の人に来てもらって、それぞれの意見を聞かせてもらったらどうか。

**【久保田委員】**

来ていただいても、聞きたいことがずっと入って来ないと思う。事前に各消防部に疑問点をアンケートの形で回答してもらい、その回答をまとめてここで審議する。審議した中で現場の人の意見を聞く必要があれば、来ていただくというふうにしたらどうか。

**【青山会長】**

久保田委員の意見について意見を求める。

(同意の声)

**【青山会長】**

消防団への質問事項の収集方法はどうしたらよいか。

**【田中美佳副会長】**

地域協議会委員で1度集まって、アンケート内容を審議してから、アンケートを送ったほうがよいのではないかと。

**【中村センター長】**

こういった視点で現場に聞いてみたいということがあれば、事務局に寄せていただいて、それを次回の会議で皆さんに諮ることにはどうか。

**【田村委員】**

質問項目の最終的な絞り込みは三役でよいのではないかと。

**【青山会長】**

質問を絞る必要はない。全部つけばよい。

**【中村センター長】**

まとめる部分はあるかもしれないが、皆さんで質問を共有することも勉強の1つになると思う。例えば、2週間後くらいまでに、こういった観点で聞いてほしいことなどの情報を事務局に寄せていただいて、次回の会議に皆さんで質問項目を検討するような形でよろしいか。

**【水島委員】**

先ほど、担当課からの話を聞いたが、わからない部分が多い。皆さんのほうから意見と言っても、何をどうしたいのか、現実的には人口減少のなかで団員が減少していく、それにはどんな問題があるのか、それはお金の問題なのか、それをぶつけたらどうなのか。皆さんか意見といっても同じ意見しか出ないと思う。わかっている方は、もっと深いところまで知っているかもしれないが、消防団とは何かと言われても私はわからない。

先ほど、田中美佳副会長が言われたが、1度ここに消防団の方から来ていただいて、皆さんで質問をして、ある程度状況が分かった中で意見書を事務局に出して、それをまとめてもらって、もう1度出すのはどうか。

**【田中美佳副会長】**

消防団の事を知ろうということから始まり、何も知らないので知ったほうが良いという話が出て、そうしようという話になった。その時にここに消防団の代表の人を呼んで、次々に質問しても話をするのは難しいかもしれないので、ある程度の事をまとめて消防団の人に書いてもらったほうがスムーズではないかという話になった。どんな質問をしたらよいかという話は難しいかと思ったが、自分の知りたい事を事務局に出してみるのもいいのではないか。時間もかかるので、そうした中でまとめていただいて、ここに持ってきていただいて、皆さんで話をまとめたほうがよいのではないか。

**【田中実委員】**

今の話を整理すると事務局も困ってしまうと思う。何の意見を求めるのか。

**【田中美佳副会長】**

先ほど事務局が言われたように何日までに自分の思っている質問を事務局に出してもらって、ある程度まとめてもらってから、ここに集まりがあったときにもう1回質問内容について審議してから、消防団に出してもらったらどうか。

**【田中実委員】**

我々、地域協議会委員が意見を事務局に出すということか。

**【古澤委員】**

3年前の会議資料で消防団のアンケート結果をまとめたものがある。これを見ると消防団の悩み等もわかるので、その資料を用意してもらって、それを読んでから議論を進めてもよいのではないか。

**【中村センター長】**

まずは、消防団の活動内容や報酬等を知り、基本的なところを押さえようと思うので、どんなことを聞きたいか事務局に提出いただく。その事前資料として意見交換の糧となるような資料を事前に送付させていただくこととし、次の会議では、実際に各消防部に聞く質問事項、確認事項を詰めていくといった流れでどうか。

**【青山会長】**

事務局案でどうか。

(同意の声)

**【青山会長】**

では、そのようにお願いしたい。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

**【小川係長】**

報告事項が3点ある。

1点目、諮問事項「市民いこいの家の温浴機能の廃止及びその後の利活用について」は、前回の会議で答申を審議していただき、附帯意見の文言については、正副会長に一任とし、意見を付して10月14日付けで答申を市に提出した。附帯意見は、「温浴機能廃止後の利活用について、趣味活動の利用者だけではなく、広く市民の方が使える施設となるよう配慮してください。」とした。その後、市から答申後方針の通知が10月28日付けで届いた。回答は、「諮問のとおりとし、所要の手続きを進めます。また、附帯意見につきましては、趣味活動の利用者に限らず、多くの市民の皆さんからご利用いただけるよう、管理の在り方を検討したうえで、施設の供用開始前に改めて諮問いたします。」とのことである。

2点目、令和4年度の地域活動支援事業について、3事業の報告をさせていただく。

直江津港周辺活性化協議会の「交流と賑わいによる『みなとまちづくり』プロジェクト」の中のうみまち親子ふれあいイベントは8月21日に開催予定だったが、その当時、新型コロナウイルスの感染症が拡大している状況であり、拡大防止のため中止となった。周知にかかるチラシ等は作成したので、その経費を除いて17万2,000円の減額の変

更手続きをさせていただいた。寒ブリ祭については、12月11日に開催予定ということで、準備を進めているということである。

次に、まちおこし直江津の「北前船がはこんだもの」のガイドマップは、採択時に「Jネットの会員にも送付したらどうか」という意見があった。団体に伝えたところ、Jネット会員分の提供があったので、市のJネットの担当課である共生まちづくり課に提供して、そこから会員に送付いただくことになっている。

ふぁみりりの「マタニティ&子育てフェス」の屋台会館の使用料については、提案書に減免申請予定と書いてあったが、直江津の活性化に繋がるということで、減免が認められ、空調の使用料のみを支払うこととなった。提案時には、机や椅子などの備品を屋台会館備え付けのものを使用予定で経費を計上していなかったが、備品の老朽化のため使用不能ということで、レンタル代が必要になった。その分事業費があがってしまうという報告があった。

- ・次回協議会：12月13日（火）午後6時30分から

#### 【青山会長】

- ・会議の閉会を宣言

#### 9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

#### 10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。